テキスト　２　人種主義とユダヤ人敵視

ナチ党・・・National（国民）sozialistische(社会主義) Deutsche（ドイツ） Arbeiterpartei（労働者党）・・ナチ（Nazi）、ナチス（Nazis）

ナチのイデオロギー（考え方・世界の見方）・・・・中心に、人種主義と反セム主義

疑似科学的根拠・・・近代科学の発達を利用し、あたかも科学的合理的な見方であるかのように、自分たちの主張を説明する。

人種主義と優生学

フランス人・アルテュール・ゴビノー、1853～56『人種の不平等について』
白人人種の「優越性」を主張。
黒人・・・プロレタリアート
黄色人・・・ブルジョアジー
白人・・・貴族・・・・・「自然的な支配権」

イギリス人チャールズ・ダーウィン『種の起源』（1859 年）
種の多様性・・・その現実をどのように説明するか？
「自然淘汰」、「適者生存」

社会ダーウィニズム・社会ダーウィニスト・・・「自然淘汰」、「適者生存」などの原理を人間社会にあてはめる考え方。
階層的な秩序の正当化。
遺伝の要因に力点。
歴史は「人種闘争の歴史」と解釈。
国家の内部における社会的不平等・格差・・・・「生物学的に」説明。

優生学・・・「人種の健全性」・・・「遺伝的に健康な者」の生殖を促進。
「遺伝病者の生殖」・・断種。

19 世紀におけるユダヤ人敵視と解放

ユダヤ人敵視（反ユダヤ主義）

…19 世紀までは、**宗教的動機付け**（「キリスト殺し」！？など）。

経済的動機付け（キリスト教徒への金利・金貸し禁止・・・ユダヤ人には、土地所有を禁止され、商業活動。「賤業」として、金貸し。

19 世紀の経過の中で、ユダヤ人の解放の進展。啓蒙主義・自由主義。

封建制の廃棄・商品経済・資本主義的商品貨幣経済の広がり。

人種的反セム主義

語族研究の進歩（科学の進歩）・・・・その誤用・悪用

インド＝ゲルマン語族・・・アルメニア、イラン、インドの言語とヨーロッパ言語の共通性・・・「アーリア系」、「アーリア人種」

対して、

セム語族・・・・ヘブライ語、アラビア語

セム人種

人種的反セム主義…1870 年代ドイツ人シャーなリストヴィルヘルム・マル『ゲルマン性のユダヤ性に対する勝利への道』

1873 年以後のドイツ帝国における反セム主義

1873 年に始まる経済危機、株式会社倒産・・・・その原因何か？

解釈の一つ・・・「反セム主義的な解釈」・・・「ユダヤ人の株価操作」、「ユダヤ人の陰謀」・・・オットー・グラガウ「社会問題は本質的にはユダヤ人問題である」

「ユダヤ人銀行家による非ユダヤ系国民の搾取」、「貪欲な資本」

底流に、普仏戦争勝利。ドイツ帝国建設で盛り上がったナショナリズム

啓蒙と自由主義、ユダヤ人解放への対抗意識・批判意識・危機意識。資本による労働者の搾取を問題にし、痛烈に批判したマルクス主義などの社会

主義・労働運動の興隆・・・それへの資本家の危機意識。

プロテスタントの宮廷説教師アドルフ・**シュテッカー**・・1879「キリスト教社会党」設立。

歴史家ハインリヒ・フォン・**トライチュケ**・・・「ユダヤ人はわれわれの不幸である!」
学生・市民層への影響

これに対しては、古代ローマ帝国研究の大家、テオドール・モムゼンが批判。

1881 年、「反セム主義連盟」・・・25 万人の市民書名による陳情書・・・「政府官職、公的職務や教育制度からのユダヤ人の排除、ユダヤ系国民に対する高等教育機関への乳が鵜制限、ユダヤ人のドイツへの移住の禁止などを要求。

1893～98 年・・・・帝国議会では反セム主義政党が 16 の議席。

日常的な反ユダヤ意識の表明・・・海水浴場、保養地における「ユダヤ人なし」

ナショナリズムと反セム主義・反ユダヤ主義の危険な結合